

## 日本マレーシア学会(JAMS) 地区例会

これは過去の学会活動の記録です。現在 JAMS 例会はオンラインで行われており、地区ごとの例会としては行われていません。

## JAMS 関西地区例会

日本マレーシア学会(JAMS)の関西地区では、年に数回の頻度で研究会を行っています。研究会についての情報は会員メーリングリストで随時案内します。関西地区研究会についての詳細は JAMS 関西地区委員までお問い合わせ下さい。

## 過去の研究会

### ■2019 年度

- ・2019 年 12 月 1 日、京都大学東南アジア地域研究研究所

報告

浅井健太(大阪市立大学大学院文学研究科研究生)

「戦間期パハン州における水牛飼育:余剰の処分から見たローカル社会経済」

- ・2019 年 9 月 29 日、京都大学東南アジア地域研究研究所

報告

上原健太郎(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 特任研究員)

「半島マレーシアにおけるイスラーム型動産担保貸付の位置づけ:調査票調査の分析から」

- ・2019 年 5 月 26 日、京都大学東南アジア地域研究研究所

報告

1. 篠崎香織(北九州市立大学)

「海峡植民地シンガポールの中国系プラナカン—中華文明圏への自己の位置づけ」

2. 安里陽子(同志社大学〈奄美・沖縄・琉球〉研究センター研究員)

「シンガポールにおけるプラナカン文化の表象をめぐって—文化政策とプラナカン協会の取り組みから考える」

### ■2018 年度

- ・2019年1月27日、京都大学東南アジア地域研究研究所  
 報告  
 1. 黄蘊(尚綱大学)  
 「シンガポールにおける上座仏教の展開―その歴史と現在」  
 2. 市岡卓(博士(国際文化))  
 「シンガポールのムスリム―ムスリムの多様性と多文化共生」
- ・2018年9月30日、京都大学東南アジア地域研究研究所(悪天候のため中止)  
 「2018年マレーシア総選挙を考える(3)」  
 報告  
 畝川憲之(近畿大学国際学部)  
 「2018年マレーシア総選挙の争点と民族」  
 篠崎香織(北九州市立大学外国語学部)  
 「争点化する地方政治:2018年総選挙におけるペナン州を事例として」
- ・2018年7月29日、京都大学東南アジア地域研究研究所  
 「2018年マレーシア総選挙を考える(2)」  
 報告  
 山本博之(京都大学)  
 「マレーシアのメディアに見る為政者の正統性:国民的英雄ハントウアの評価をめぐって」  
 鷲田任邦(東洋大学)  
 「マレーシアにおける覇権政党の盛衰と開発予算配分:選挙区レベルの配分データから」
- ・2018年5月13日、京都大学東南アジア地域研究研究所  
 「2018年マレーシア総選挙を考える」  
 話題提供  
 篠崎香織「2008年以降の華人社会から」  
 田中李歩「野党連合による統一ロゴ使用の意味」  
 山本博之「サラワクの備え、サバの覚悟」
- 2016年度
- ・2016年12月10日、大阪市立大学  
 報告:大東和重氏(関西学院大学法学部教授)

「比較文学研究者の見たマレーシア華語文学 出会いと関心の所在」

■2015 年度

・2015 年 4 月 25 日

報告: 信田敏宏(国立民族学博物館)

「イスラーム化と先住民—みんなく東南アジア展示新構築から考える」

■2013 年度

・2014 年 2 月 22 日

報告: 森田良成(大阪大学大学院人間科学研究科・特任助教)

「贈与と売買—インドネシア・西ティモールのドキュメンタリー映像を通じて」

・2013 年 5 月 19 日、京都大学

「二大政党制は定着するのか—2013 年マレーシア総選挙の現地報告と分析」

趣旨説明

午前の部

・報告 1 「マレーシア史上もっとも注目された選挙—何が変わったのか？」(中村正志)

・報告 2 「国家主導の『開発』と国民の『福祉』をめぐる政治から読み解く」(鈴木絢女)

午後の部(1)

・報告 3 「なぜ PAS は『UMNO に取って代わる』ことができなかったのか？」(塩崎悠輝)

・報告 4 「『スルー王国軍』侵入事件の総選挙への影響」(山本博之)

午後の部(2)

・報告 5 「華人の政治意識の変化」(篠崎香織)

・報告 6 「2013 年総選挙と社会運動—ブルシはマレーシア社会の何を変えたのか」(伊賀司)

総合討論

・コメンテーター 鳥居高／金子芳樹

■2012 年度

・2013 年 3 月 2 日

報告

黄蘊(京都大学研究員)

「マレーシアにおける上座仏教の展開と「仏教公共圏」」

伊賀司(神戸大学研究員)

「マレーシアにおける情報公開法の制定過程に関する研究:変わるガバナンスと活性化する市民社会」

■2011 年度

・2012 年 3 月 18 日、大阪市立大学杉本キャンパス

報告

小河久志(京都文教大学)

「イスラーム復興運動の進展とその諸相:タイ南部の事例から」

塩谷もも(島根県立大学短期大学部)

「地域の紐帯としてのイスラーム?:中部ジャワの事例から」

■2010 年度

・2010 年 11 月 20 日、大阪市立大学杉本キャンパス

報告

上田達(摂南大学)

「スクオッター集落と村:コタキナバルのあるカンポンの事例から」

櫻田涼子(京都大学 GCOE 研究員/筑波大学研究員)

「低価格住宅におけるマレーシア華人の住宅改造と住まいの諸実践」

■2009 年度

・2010 年 1 月 30 日、京都大学

第1部 マレーシア

報告1:市川哲(立教大学)

「現地化からトランスナショナリズムへ—マレーシア華人の文化人類学的研究動向」

報告2:黄蘊(関西大学)

「もう1つの華人社会—マレーシアにおける英語話者華人の宗教実践と彼らの生活世界」

報告3:篠崎香織(北九州市立大学)

「国民としての揺るぎない自信—ネーション・ビルディングをめぐる研究動向」

コメント:片岡樹(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

第2部 インドネシア

報告1:Jafar Suryomenggolo(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

"Chinese Workers and their Organizations during the Indonesian Revolution, 1945-1950" (英語による報告)

報告2: 北村由美 (京都大学東南アジア研究所)

「ポスト・スハルト期華人文化の行方-儒教と表象に関する事例から-」

報告3: 津田浩司 (日本学術振興会特別研究員 PD)

「自己(再)定義を迫られるインドネシアの寺廟-東・中ジャワの調査から-」

コメント: 貞好康志 (神戸大学大学院国際文化科学研究科)

・2009年4月24日、京都大学

趣旨説明: 西尾寛治

報告1: 菅原由美 (天理大学) 「オランダ領東インドの抵抗運動における公正概念」

報告2: 篠崎香織 (北九州市立大学) 「現代マレーシア政治におけるアディル概念」

コメント1: 弘末雅士 (立教大学)

コメント2: 宮脇聡史 (東京基督教大学)

#### ■2008年度

・2008年10月27日、京都大学

報告: 鈴木絢女 (政策研究大学院大学)

「マレーシアにおける協議的政治制度の形成と実行-『半権威主義体制』論を超えて-」

・2008年9月27-28日、総合地球環境学研究所

9月27日(土)

開会挨拶と趣旨説明・・・立本成文

第1部 『マレー農村の研究』の思い出とその後

1. マレーシア農村の長期観察と小人口世界・・・坪内良博

2. マレー農民のエートス: 東北タイと比較して・・・口羽益生

3. 低湿地と植民地政策・・・古川久雄

第2部 談論

1. 『マレー農村の研究』をめぐって

問題提起・・・永田淳嗣、多和田裕司、鳥居高、西尾寛治、市川昌弘、加藤剛、阿部健一

提起に答えて・・・坪内良博、口羽益生、古川久雄、立本成文

2. 自由談論 司会: 山本博之

9月28日(日)

第3部 マレーシア研究の展開と将来

1. 農業・農村の変容・・・永田淳嗣
2. 「マレー」および「マレー研究」におけるイスラーム・・・多和田裕司
3. 開発と政治・・・鳥居高
4. 混血者とマレー社会・・・西尾寛治
5. 山に暮らす人々と熱帯林問題・・・市川昌広

第4部 マレーシア研究の最前線

1. 世紀転換期ペラにおける錫鉱業の展開と採掘用地: 鉱業台帳分析を中心に・・・東條哲郎
2. 総合討論

主催: 日本マレーシア研究会 (JAMS) 関西例会、平和環境もやいネット・もやいフォーラム

・2008年5月4日、5日、京都大学中央研究総合2号館

公開フォーラム「民族の政治」は終わったのか?—2008年マレーシア総選挙の現地報告と分析—

5月4日

基調報告「BN体制とは何か: 仕組みと特徴」鳥居高(明治大学)

セッション1 BN体制の変容?—マクロ政治からの視座

「データで見る第12回総選挙結果の特徴」中村正志(アジア経済研究所)

「政治システムは変わるか—2008年総選挙における3分の2議席割れの政治的意味」金子芳樹(獨協大学)

「争点と政策空間の変容からBNへの投票行動を説明する」鈴木絢女(日本学術振興会特別研究員・東京大学)

セッション2 BN体制への対応(1)—民族別の改革の試み

「華人がいま代表者に求めている役割」篠崎香織(在マレーシア日本大使館)

「マレーシア・イスラーム党(PAS)の新局面と第12回マレーシア総選挙」塩崎悠輝(同志社大学大学院/在マレーシア日本大使館)

5月5日

セッション3 BN体制への対応(2)—民族間関係の再編の試み

「新世代と『オールタナティブ・メディア』:総選挙の裏側で起こっていた地殻変動」伊賀司  
(神戸大学大学院)

「「新党」は政治変革をもたらすのか:マレーシア政治の視点から」川端隆志(外務省)

セッション4 「地方の論理」をどう読み解くか

「トレンガヌ・マレーの選択:なぜ、スイングしなかったのか」河野元子(京都大学 大学院)

「なぜサラワクとサバでは BN が「圧勝」したのか」森下明子(日本学術振興会特別研究員・  
京都大学)

「「サバ BN 圧勝」と「サバ人のサバ」のゆくえ」山本博之(京都大学)

・2008年5月3日、京都大学

報告:西尾寛治(防衛大学校)

「公共領域としての地域研究の可能性:東南アジア海域世界における福祉の展開を事例として」

#### ■2007年度

・2008年1月26日、国立民族学博物館

報告(1):多和田裕司

「競合するイスラーム——マレーシアにおけるイスラームの制度化をめぐる」

報告(2):河野元子

「トレンガヌ州における地方政治の展開——開発とイスラーム化のはざままで」

2008年3月21日、総合地球環境学研究所

「マレーシアにおける先住民の土地、政府の土地:半島、サバ、サラワクの比較」

報告:信田敏宏(国立民族学博物館)、内藤大輔(京都大学大学院)、市川昌広(総合地球  
環境学研究所)

#### ■2006年度

・2006年5月27日、キャンパスプラザ京都

報告:加藤剛(龍谷大学社会学部)

「川の流れのように——研究教育人生、来し方行く末」(ノーカット版)

・2006年3月11日、京都大学大学院教育学研究科

報告:加藤裕美(京都大学大学院人間環境学研究科修士課程)

「サラワクにおける定住狩猟採集民の生計戦略」

報告: 綱島郁子(同志社大学神学部嘱託講師・COE 一神教学際研究センター共同研究員)  
「英領マラヤ時代のマレー人に対するキリスト教宣教の実態と変遷——ウィリアム・シェラベア  
を事例に」

■2005 年度

・2005 年 7 月 22 日、国立民族学博物館

「フロンティアのマレーシア華人」

報告(1): 高村加珠恵(東京外国語大学大学院・博士課程)

「タイ・マレーシア国境東部に生きる華人: 華人化とタイ化のはざままで」

報告(2): 市川哲(東京外国語大学)

「現地化の諸相: サラワク州におけるある華人のファミリー・ヒストリーを事例として」

報告(3): 田村慶子(北九州市立大学)

「「辺境」から問うマレーシアの国民国家: サバ華人社会の変容を中心に」

研究会報告「華人アイデンティティは華語・華語教育でどこまで語れるのか」(信田敏宏・篠  
崎香織)

(会報第 33 号)

・2005 年 3 月 11 日、京都大学大学院教育学研究科

報告(1): 加藤裕美(京都大学大学院人間環境学研究科・修士課程)

「サラワクにおける定住狩猟採集民の生計戦略」

報告(2): 綱島郁子(同志社大学神学部嘱託講師・COE 一神教学際研究センター共同研究  
員)

「英領マラヤ時代のマレー人に対するキリスト教宣教の実態と変遷——ウィリアム・シェラベア  
を事例に」

■2004 年度

・2004 年 3 月 25 日、京都大学大学院教育学研究科

「生業経済からみるマレーシアの〈辺境〉」

報告(1): 内藤大輔(京都大学大学院)

「マレーシア半島部ヌグリ・スンビラン州における先住少数民族トゥムアンの生業変容」

報告(2): 小野林太郎(日本学術振興会特別研究員)

「ボルネオ島サマ・バジャウ集団の生計経済活動と食生活の現状」

**関西地区委員**

- 2018.4-2020.3 山本博之
- 2016.4-2018.3 多和田裕司、黄蘊
- 2014.4-2016.3 多和田裕司、上田達、黄蘊
- 2012.4-2014.3 多和田裕司
- 2010.4-2012.3 多和田裕司
- 2008.4-2010.3 山本博之
- 2006.4-2008.3 杉本均、信田敏広
- 2004.4-2006.3 杉本均、信田敏広
- 2002.4-2004.3 杉本均